

## <教材>

単元：

中学校>英語>第二学年>英文法>接続詞>接続詞 when

使用教科書：中学二年生用英語の教科書「Here we go」、Unit 6、active grammar 6,7

タイトル：

接続詞 When を使ってみよう

キーワード：(5個以内)

接続詞、when、文の結合、

### 0-1. 単元目標

単元目標： (単元終了後に目指す子供の姿)	文を繋ぐ&意味を補強するための「接続詞・不定詞」を学ぶ。 ① 「接続詞」の概要について理解している(学んだ語彙や自身の言葉で「接続詞」について説明できる状態)。また、それを用いた文章の構造を把握できる、自身で適切に使用することが出来る。 ② 「不定詞」の概要についてしっかり理解している(学んだ語彙や自身の言葉で「不定詞」について説明できる状態)。また、それを用いた文章の構造を把握できる、自身で適切に使用することが出来る。
単元目標を達成するための手立て・工夫	① の目的を達成するためにする事 →「接続詞とは何か」を説明出来るようになる。(例：等位接続詞とは、文と文、単語と単語などの同じ形を繋ぐ役割の品詞、など) それらを使用した文構造を具体的な例文と共に理解し、役割、場所を覚える。1文を2文に、2文を1文に出来るようにする(演習にて)。 該当の語を使用した文を自分で作れるように、実際に使用する場面を授業内で作る。 ② の目的を達成するためにする事 →「不定詞」の概念を理解するため、日本語に落とし込む。(～のため) それらを使用した文構造を具体的な例文と共に理解し、役割、場所を覚える。1文を2文に、2文を1文に出来るようにする(演習にて)。 該当の語を使用した文を自分で作れるように、実際に使用する場面を授業内で作る。

### 0-2. 本単元における本時の位置づけ(単元計画)

項目	時	授業目標・主たる学習活動・学習内容	備考
1. 接続詞 When (本時)	1	目標：「接続詞」の概要を理解し、それを自身の言葉で説明することが出来る。且つ、接続詞 when を用いて適切な位置で文を作ることが出来る。 内容：「接続詞」の意味について、作り方について理解する。When を使用して時間や期間を含めた文を見る、作る	
2. 接続詞 If	2	目標：接続詞の概要を復習、接続詞 If を用いて適切な位置で文を作ることが出来る。 内容：接続詞 If を使用した文章の構造を考え、1文を2文	

		に、2文を1文に出来るようにする。該当の語を使用した文を自分で作れるようになる。	
3. 接続詞 That	3	目標：接続詞の概要を復習、接続詞 that を用いて適切な位置で文を作ることが出来る。接続詞 when や If との違いを理解する。 内容：接続詞 that を使用した文章の構造を考え、1文を2文に、2文を1文に出来るようにする。該当の語を使用した文を自分で作れるようになる。	
4. 接続詞 Because	4	目標：接続詞の概要を復習、接続詞 because を用いて適切な位置で文を作ることが出来る。 内容：接続詞 because を使用した文章の構造を考え、1文を2文に、2文を1文に出来るようにする。該当の語を使用した文を自分で作れるようになる。	
不定詞（目的を表す副詞的用法）	5	目標：不定詞の定義を理解する。To 不定詞を使用して文章を作ることが出来、質問にも答えられるようにする。 内容：不定詞とはを学ぶ、To 不定詞（目的を表す）の役割や使用例を見る、実際に問題で適切な位置や意味で使用する、質疑応答にて使用する	
不定詞（原因を表す副詞的用法）	6	目標：不定詞の定義を理解する。To 不定詞を使用して文章を作ることが出来、質問にも答えられるようにする。 内容：不定詞とはを学ぶ、To 不定詞（原因）の役割や使用例を見る、実際に問題で適切な位置や意味で使用する、質疑応答にて使用する	

### 1. 授業目標：(一言で)

接続詞「when」を使ってみよう

### 2. 授業目標：(ある程度具体的に)

- ① 接続詞の概要（意味や役割）を理解する。(接続詞とは、を日本語で説明することが出来る)
- ② 接続詞の作り方について理解する。(文を繋げる事や、適切な位置を学ぶ)
- ③ 接続詞 when が使用された文を見る、構造の理解につなげる。
- ④ 接続詞 when を用いて適切な位置で、時間や期間を含めた文を作る。

### 3. 本教材のポイント：

接続詞という単元の最初であることから、「まずは何を学ぶのか」をハッキリとさせる。  
そして実際の文を読んだり、演習で問題を解いたり様々な文を見る機会を作る。  
一番のポイントである、問題を「自分事化」するために、各生徒にひとつづつ別の課題を与える。  
ただの問題を解く時間にならない様に、生徒全体で授業を進めていくことに重きを置きました。

### 4. 授業デザイン（展開）：

活動	内容	指導上の留意点
導入	<p>■前回の内容を確認しつつ、本時の導入を行う。</p> <p>「接続詞」を学んでいくが、そもそも接続詞とはなんだろうか？ を考える。(例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>●順列…日→すると／そして 英→and,(so) 例："She studied hard for the exam <b>and</b> scored high marks." (彼女は試験のために一生懸命勉強し、<b>そして</b> 高得点を取った。)</p> <p>●逆説…日→しかし／でも 英…But, However 例："He wanted to go to the party, <b>but</b> he was too tired." (彼はパーティーに行きたかった<b>が</b>、とても疲れていた。)</p> <p>●並列…日→～と／また／かつ 英→and, or 例："Would you like tea <b>or</b> coffee?" (お茶がいいですか、<b>それとも</b> コーヒーがいいですか?)</p> </div> <p>接続詞は、単語と単語、文と文を「つなぐ」言葉であることを確認。</p> <p>○接続詞の中でも、2種類あることを説明。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① 等位接続詞 等位（繋げる単語や文がお互い等しい位（形）である） 等位接続詞には、先ほど例で見た</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ and（～と、そして、そうすれば）</li> <li>・ but（しかし）</li> <li>・ or（または、すなわち、さもないと）</li> <li>・ nor（～もまた…ない）</li> <li>・ so（だから）</li> <li>・ for（なぜなら）      の6つがある。</li> </ul> <p>② 従属接続詞 後ろに節【SVを含む語群】に従えることで、一つの文を作ることが出来る接続詞。 →メインとなる文に何らかの情報を補足的に加える文がつく。前後文を入れ替えると意味が成り立たない、つまりお互いが等しい関係ではなく、メインを補助する（従属する）形の関係。 Because, if, when などに当たる。(今後学ぶ単語と示す)</p> <p>【例】 I was six year old <b>when I lived in Tokyo.</b> 「六歳だった」という文に、「東京に住んでいた時」という補助的な節文が付けられている。 東京に住んでいた時、ただだと意味が通らない。</p> </div>	<p>→以前の単元で and, but, so, or,などは履修しているはずなので、そちらの復習にもつなげる (順列や逆説…などの単語は国語の授業でも接続詞として履修するため、生徒の理解を助ける可能性がある)</p> <p>→日、英ともに生徒に発問させる。もし出ない場合は例文をだすことで促す。例「雨が降りそうだったので、家を出るときに傘を持ってきました。◆雨は降りませんでした」の様に、普段使用していることを気づかせ、回答を促す。</p> <p>接続詞について、難しい単語などが出てしまうと苦手意識が強くなる可能性もあるので、「等位・従属接続詞」はあくまでもタイトルだけの様に、あまり使用しない様に。</p> <p>要点として、等位接続詞と従属接続詞の違い、これから従属接続詞のほうを学んでいく、という点を強調。</p>

	<p>T:では、話を戻します。「私が朝起きたとき、母は料理をしていました」という文のなかの接続詞はなんでしょう？</p> <p>S:とき？</p> <p>T:そうです、「母は料理をしていた」という文に「私が起きた時」という補助文を繋げていますね。</p> <p>T:この様に、「～したとき」「～した瞬間」などと文をつなぐ役割の接続詞が日本語にもありますね。これを英語に変換すると「When」になります。</p> <p>T:ということで、今日は「時点」を表す接続詞のうち従属接続詞である「～のとき (when)」の使い方を学んでいきます。</p> <p>※「時点」を表す他の接続詞として、after,before,since, until などがあることを補足。もし履修していたら復習。</p>	<p>→もし「いつ～？」の疑問文での when を履修済みであれば、</p> <p>① 同じ単語であるが役割が違う事</p> <p>② 役割は違うが、どちらも時間や期間が関係していることなどを補足説明。</p>
<p>展 開 ①</p>	<p>■課題の検討①</p> <p>初めに基礎の文法法則</p> <p>① 「when+文」で「～のとき」を表す。例文を多々交えつつ説明。例「I read books when I am free.」は「わたしはひまなとき、本を読みます。」</p> <p>② 文の前半に「when+文」を置く場合は、カンマを入れて文の区切りを明確にする。 (例: When I am free, I read books.)</p> <p>→練習問題（マーカーで引かせる）を2, 3問（例）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>① She was very happy when she heard the news. (彼女はそのニュースを聞いてとても喜びました。)</p> <p>② When it rains, I like to read a book. (雨が降るとき、本を読むのが好きです。)</p> <p>③ Call me when you arrive. (到着したら電話してください。)</p> </div> <p>→では実際に問題を解いてみましょう プリント2使用。 →答え合わせ（生徒に答えてもらう）</p>	<p>ノートかプリントで、実際にマーカーで引く、など手を動かさせさせる。</p> <p>→あくまで前半の場合のみ、という事を強調する</p> <p>→、前半に when 文がある場合はカンマも見つける事を忘れずに</p> <p>できれば③まで。以下は宿題時間配分を見つつ柔軟に。</p>
<p>展 開 ②</p>	<p>■課題の検討②</p> <p>即興でお話を作ってみよう！</p> <p>まずは日本語で一人ずつ短文を出してもらい続けていく。 「～なとき、～をしました」の形。前半は前の文の後半の意味を引き継ぐ。</p>	

<p>(例):</p> <p>T: 「むかしむかし、あるおばあさんとおじいさんがいました。おじいさんが川へ行ったとき、オレンジがありました」</p> <p>S1 「オレンジがあったとき、おじいさんは驚きました」</p> <p>S2 「おじいさんが驚いたとき、体に痛みが走りました」</p> <p>S3 「体に痛みが走った時、おじいさんは座りました」</p> <p>S4 「おじいさんが座った時、オレンジがこっちに転がってきました」 etc</p> <p>→自分の考えた文はノートかプリントに書いておくように</p> <p>一人ずつ終わったら、それを英語にする。</p> <p>まずは先生の文を変換</p> <p>「Once upon a time, there were old men and old women.」</p> <p>「When he went to a river, there was an orange.」</p> <p>【過去時制、代名詞など気を付けるポイントを説明】</p> <p>→その後プリントに書いた自分の文の下に英語版に書き直す。</p> <p>時間内にできない場合は宿題</p> <p>※もし人間的・時間的にサポートする時間が足りない場合</p> <p>→予め作った文を、一人一文ずつ割り当てる。</p> <p>例「おじいさんが川に行ったとき、彼は流れている桃をみました」→Aさん</p> <p>「流れている桃を見た時、彼は助けようと思いました」→Bさん</p> <p>「助けるために川に入った時、桃が動いていました」→Cさん</p> <p>「桃を助けた時、桃の中に男の子がいました」→Dさん</p>	<p>「桃太郎」「浦島太郎」などの昔話や「ワンピース」などの有名な漫画などをなぞると展開やセリフなどを考えやすい。</p> <p>生徒によって物語が変化していくので軌道修正や補足、後に英語にするときにより簡単にできるようにサポート。</p> <p>→英文にするのが難しい場合は単語をすべて調べて、先生に作り方を教えてもらう。</p> <p>→不安な場合は放課後などに先生に聞きに行く</p> <p>→難易度や単語の量などを調整できる</p> <p>→元々ある簡単な英語にした桃太郎を、1文短めにして繋げていく。</p>
<p>ま ■<b>本時の学習内容のまとめ</b></p> <p>と 今回のまとめを簡潔に</p> <p>め 例：今回は文と文を繋ぐ役割のある接続詞について、その中でも「～の時」などという時間を繋げる「when」を学びました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題の確認→プリント残りと言語の一文の英訳</li> <li>・次回の授業で一人ずつ黒板に書いてもらうか読んでもらうことを伝える。</li> </ul> <p>終わりの挨拶</p>	<p>→一人でも忘れると物語が繋がらなくなってしまう、と強調</p>

## 5. 作成者から一言：

「接続詞」と聞くと難しく思ってしまうがちなので、いつも使っていることを強調しながらお願いします。

## 6. 参考文献：

ちびむすドリル中学生、アクセス日：2024.11.8

[https://happyilac.net/3-0131\\_conjunction-02.pdf](https://happyilac.net/3-0131_conjunction-02.pdf)

中学英語の演習サイト くり演、アクセス日：2024.11.8

プリント 2 <https://study-ksj.com/wp-content/uploads/2023/04/enshu-24-03.pdf>